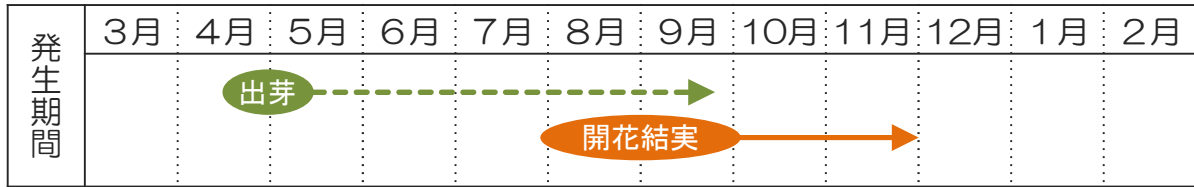


オオオナモミ

キク科, 一年生



メキシコ原産で、しばし河川敷などに群生が見られる。鉤状の棘をつけた特徴的な果実を着ける。本県の大豆ほ場においては、全域に発生が見られ、局地的に多発している。



形態的特徴	<p>子葉は多肉質で細長く、本葉ははじめの4枚が卵型で、5枚目以降は葉身が3～5つに裂する。葉柄は長くて赤紫色。茎は直立し、草丈は1mを越す。茎上部に、中に2つの種子を包む果実を多数つける。</p>
生態的特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・果実は動物などに付着して分散するほか、水系でも移動・分散する。 ・果実の内部には大小2つの種子があり、大きい方は翌春に出芽するが、小さい方は1年休眠するものが多い。 ・出芽深度は1～4cmに集中する。
化学的防除法	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌処理剤: 効果は期待できない。 ・大豆バサグラン液剤(全面): 6葉までで枯死～強い生育抑制効果があるが、低日照などにより効果が低下する場合がある。 ・アタックショット乳剤: 4葉までで枯死～生育抑制効果がある。
耕種的防除法	<ul style="list-style-type: none"> ・侵入初期に、手取りや刈取りによる除草を徹底する。 ・ほ場周辺が種子源となっているので、ほ場周辺の防除を徹底する。